

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 056	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
要望問題名 木質バイオマス燃料の活用について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 川崎市では、馬絹地区を中心にハナモモ、モクレン、サクラ等の切枝栽培が行われているが、切枝の出荷調製の際に発生する出荷できない枝を、これまでは枝を細かいチップにして畑に散布していた。しかし、この散布した廃棄枝が原因となって白紋羽病が発生する恐れもあることから、別の処理法に対する要望が出されている。 このような状況の中で、最近、他県で木質バイオマス燃料を利用した暖房が新聞等で紹介され、川崎市でも暖房に廃棄枝を利用したいという要望が出てきた。 そこで、大規模温室用ではなく、作業場や育苗用の小規模温室などで、ストーブ程度の暖房機で利用できる木質バイオマス燃料を開発してもらい。 また、木質有機物の有効利用と、環境に配慮した暖房利用で江戸時代から続く川崎市の枝物産地のPRを兼ねた取り組みなるように、技術支援をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 現在利用可能な木質バイオマス燃料には、木質ペレット、チップ、木炭、薪があります。このうち施設の暖房機に供給の自動化ができる物は木質ペレットとチップです。木質ペレットは、発熱量は安定しますが、加工するための生産施設までの運賃を含めると高価になります。一方、チップは安価ですが、燃料としての発熱量が一定しない等の問題があります。 ストーブ程度の暖房機で利用できる木質バイオマス燃料は、森林が多い県等で先行した研究がされていますので、現地対応可能な燃料についての情報を提供をします。その後の技術支援については、現地で利用できる木質バイオマスを使った暖房が可能になった時点で検討します。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			